

2024年1～2月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

点晴の一語を恋うてゐる霜夜
純白の闇へ消え入る雪女郎
義理と嘘絡めてバレンタインデー
堰落つる水が光となる二月
吹き曝す屋敷祠や一の午

八王子 石井 蓉子

年用意ガイドヘルパー良く動く
焼き芋の声に癒され励まされ
冬至粥小さき座卓に置きにけり
一人居にプレゼント来る聖夜かな
一年の感謝の響き除夜の鐘

新宿区 壺守 けいこ

悴める手に肺いっぱい息かける
見ゆるかと富士を探して去年今年
竹爆に後ずさりするどんどかな
旅支度も三寒四温に迷ひつつ
一枝の蠟梅もらう香とともに

町田 小森 まさひこ

初富士にまん丸月の落ちにけり
谷戸奥に古りし家あり福寿草
雪富士を真正面に高速道
雪降れと富士を走りし雪女郎
避寒地の小鳥良く飛び良く食べる

2024年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

地虫出づふっくら土を持ち上げて
ころころとぬらぬらぬらと地虫出づ
次の橋まで下萌の土手づたひ
人影に蝌蚪の大国乱れけり
散り際の重さを揺らす紫木蓮

八王子 石井 蓉子

一言を飲み込むバレンタインの日
悴む手そっと出したる贈りもの
春の道一步いっぽに五七五
若き日の母に似ている雛かな
草萌の色くっきりと雨あがる

新宿区 壺守 けいこ

啓蟄や並びし影の長々と
み吉野の花の移ろひ見る三日
雨音に今年の花を惜しみけり
遠山を間地かに見せて山桜
補助車の媪に纏はる春日かな

町田 小森 まさひこ

黒土をついて物の芽出にけり
裸婦像の肌を流れる春の雨
猫柳の揺れる綿毛が触れてくる
人知れず咲きし春蘭見てをりぬ
鎌倉の春の一日の夕べかな

2024年5～6月掲載分

2024年7～8月掲載分

2024年9～10月掲載分

2024年11～12月掲載分

